

概要報告

実施期日	8月3日(木)
部会名	小学校 音楽部会

神奈川県研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実（含む社会に開かれた教育課程の充実）

テーマ

『一体感を味わう』

提案概要

1. 実践に向けての課題意識

コロナ禍を過ごしてきた子どもたちは、みんなと音を合わせる経験がほとんどなかった。また、プロの音楽家との出会いもなく、本物に触れる体験や、本物を体験した後に自らの学びに生かす経験が、例年と比べると不足している。

2. 実践の概要

〔実践1〕外部講師を招いての授業

外部講師との授業では、各声部の楽器の音や全体の響きを聴いて音を合わせて演奏する技能を、習得させたいと考えた。また、これを単発の授業で終わらせることなく、カリキュラム・マネジメントの3つの手段を意識しながら、講師の方に関わっていただくよう計画を立てた。講師の方との相談を重ねる中で、初めは主に打楽器の音色を扱うつもりであったが、拍を扱うことで、打楽器の子どもだけが音色や響きに気を付けて演奏するのではなく、全員で拍を感じた演奏ができるようにと考え、身に付けさせたい力も修正することとした。講師の方には、打楽器パートの子どもたちだけが上達するのではなく、全員が同じ学びができるようお願いをした。そこで実施したのが、なわとびを使つての実践だった。授業の前は「どうしたら間違いなく演奏できるか」「疲れないたき方を知りたい」という個人の考えが目立ったが、授業後は、自然に体で拍をとる子や、「他の楽器の音を聴きながら演奏できるようになった」と感想に書く子があられ、「互いの音を聴こうとする姿」が育まれてきた。

〔実践2〕鑑賞「ハンガリー舞曲第5番」

実践1での“友だちと一緒に音楽との一体感を味わう”という共通の経験をもとに、鑑賞の授業へとつなげた。3人の異なる指揮者の演奏を聴き比べる中で、子どもたちは自然に体を動かしたり、指揮をしたりと演奏の違いを主に拍から感じ取っていた。一方、「ハンガリー舞曲第5番」の大きな特徴である長調と短調の変化に着目させることができないということが見えてきたため、再度計画を見直すこととした。

3. 成果と課題

“拍”にポイントを絞ったことで、子どもたちに表現で学んだことを鑑賞へと生かそうとする姿が見られた。しかし、音楽の聴き方を限定的にしてしまった面もある。外部講師を招く際は、それぞれの思いを摺り合わせていく事前打ち合わせが大切である。

質疑応答

質疑応答の時間ではなし。

協議の柱及び協議・概要

〔協議の柱①〕子どもたちが一体感を味わうための手立て

- ・なわとびで拍を視覚化、体感したことで拍を感じる事ができ、一体感を味わっていた。
- ・みんなとの一体感と音楽との一体感がある。みんなが主体的に関わる事が一体感につながるのではないか。
- ・低学年は、カスタネットを使ってのリズム遊びを通して一体感を感じる事ができる。
- ・リズムは一体感を味わう一番扱いやすい教材。
- ・それぞれのパートの役割の確認と共有。
- ・メロディーを理解させる。
- ・音楽を楽しむ事が大切（どうして合わせるの？ どうして一体感を味わうの？）。なわとびを使ったことで、上手にやる事ではなく、音楽が苦手な子も、楽しさを実感できたのではないか。
- ・フレーズ感が必要だった。手で拍を刻む（手で歌う）。主旋律のみから、次に打楽器も入れていく。
- ・「揃った！」「楽しかった！」という気持ちが一体感につながる。
- ・一体感を何で感じるかという定義は難しい。ズレたとしても「あっ、ズレた」と気付けること自体が一体感を感じている証拠ではないか。

〔協議の柱②〕外部講師の効果的な活用

- ・地域の方に外部講師として手伝ってもらうのもよい。
- ・導入で呼ぶのか、完成間近で呼ぶのか、ねらいによって呼ぶ時期を考えるとよい。
- ・計画的に来ていただく（導入・パート練習・全体合奏）。
- ・どんな人をいくらで呼べるのか、講師バンクがあるとよい。
- ・プロの演奏家が You Tube にあげている演奏も効果的。

〔協議の柱③〕表現で学んだことと鑑賞で学んだことを関連付けるための手立て

- ・1年生からの積み重ねが効果的である。言葉や体を使って表現の幅を広げていく。段階的に、学校全体で取り組めるとよい。
- ・表現で扱う曲と同じ拍子の曲を聴く。
- ・単元（題材）構成が大切。

まとめ概要

- ・今回の実践は、授業者が PDCA サイクルを大切に取り組んでいた。このサイクルは、音楽の授業全体のサイクルと、子どもたち一人ひとりの学びのサイクルの両面を大切に考えられていた。
- ・音楽を形づくっている要素を“拍”に絞ったから得られたものがあった。これまでの学習で子どもたちが身に付けてきた要素、そして、この授業で身に付ける要素をその都度確かめながら題材を構想することが重要である。